

# 沖縄県の離島における在職者訓練への取り組みと実践報告

沖縄ポリテクカレッジ 生産情報システム技術科 林 文彬  
(沖縄職業能力開発大学校)

## 1. はじめに

沖縄県には石垣島や宮古島のような人口4万人を超える島々があり、それらの島への交通は、飛行機で50分ぐらいを要する。旅費や時間等の制約が多々あるため、これまで、当大学校では、地元での在職者訓練の実績がなかった。

昨年(2003年)3月、石垣市地元の方々との交流会に参加する機会があり、これを機に、現地の事業主や事業主団体の方々と直接対話することができた。その後、石垣市商工会(以後、商工会と略する)が主催となり8月に企業人スクール1コースを立ち上げることができた。これは沖縄職業能力開発大学校(以後、沖縄能開大と略する)と商工会が石垣島で初めて在職者訓練を実施する試みである。その実施の経緯を紹介し、実施の成果と問題点を検討する。

## 2. 石垣島の現状と問題点

石垣島は美しいサンゴ礁の海に囲まれた自然が溢れる島である(写真1)。ここには八重山諸島の中心として栄えてきた独特の歴史と文化がある。

島の中心である石垣市は日本最南端の市で、沖縄本土から飛行機で約55分かかかる。国内航路には東京、大阪、名古屋および福岡等からの直行便が運航されている<sup>1)</sup>。

現在、石垣市の人口は4万6千人であるが<sup>2)</sup>、毎年、島に訪れる観光客は70万人程度に達している<sup>3)</sup>。



写真1 川平湾(石垣島)

そこで、ホテル・飲食店を中心とする観光業や、豊かな自然で生まれる健康食品業は島最大の産業である。さらに、年間を通じて、大勢の観光客の来訪により、あらゆる産業への波及効果が大きくて、各業種にも繁栄をもたらしている。現地の各分野の事業規模は4万6千人の住民だけではなく、常に70万人の観光客もここに生活していることを意識しなければならない。

しかし、地元での各業種に対応する専門技術・技能の学習環境にはまだ恵まれず、高度な技術を訓練する施設が少ない。そのため、高度な技能・技術を学習するには沖縄本島の教育施設に頼らざるを得ないことになる。

ホテル等の観光業界担当者との意見交換によると、観光業界の求人は現地採用を優先するものと考えている。しかし、接客マナー、ホテル管理等の専門技術をもつ人材が足りないことで、外部人材の登用割合が大きくなっている。

産業界の方々には、地元の高失業率の改善と企業の

活性化に役だつために、人材育成の大切さを深く認識していることを示している。

### 3. 実施経緯

2003年3月に中琉文化経済協会（黄輝慶代表）が石垣市で地元政財界の人々との交流パーティーを開催し、筆者も参加する機会を得た。石垣に出掛けるには経費、時間等で困難を伴うが、石垣への旅は初めてでもあり、良い機会であるので、参加することにした。

交流会場には大濱長照石垣市長が出席しており、市長にあいさつすると同時に、しばらくの意見交換をした。その中で、沖縄能開大の県内の企業を支援する在職者訓練の制度を説明した。大濱市長も地元企業の発展と競争力の向上を見据えて、人材育成の推進が必要であるとの意を示し、石垣市商工会との話し合いを提案した。また、市の情報担当の責任者を紹介することも承諾した。

翌日、石垣市商工会真栄田義世事務局長を訪問し、沖縄能開大で実施する在職者訓練を説明した。真栄田事務局長は会員企業の社員に研修の機会を作る意向を示し、商工会が主体となる在職者訓練の実施の準備が開始した。

### 4. 実施への取り組み

商工会と沖縄能開大との協議が続き、在職者訓練の実施に向けて準備を行った。その準備段階に当たって、下記のような問題点が表れた。

#### (1) 地元のニーズに合うコースの設定。

現地に製造業が少なく、主とする産業は観光業や健康食品製造等である。そのため、制御系より情報系のコースが受けられやすいと考えた。そこで、実施するコースの選定に当たっては、沖縄能開大で実施された情報系を中心とするセミナーや企業人スクールのコースのうち、約十数コースの概要を商工会に提示した。検討の結果、Windows環境のプログラミングを利用して、アプリケーションシステムを構築する「OSプログラミングによる企業内システムの

実践構築」という企業人スクールが決められた。

#### (2) 実施時間の決定。

現地の企業には、社員が仕事を休んで研修に参加する環境がまだ整っていない。そのため、訓練の実施時間帯を夜間または休日にするほうが望ましいと考えられた。しかし、担当者が出張の形で対応する在職者訓練は、1日6時間の授業を実施しないと滞在期間の長期化になる。そのため、最後の調整で夏休み期間中（8月19日～28日）の15:00から21:00の間に実施することが決まった。

#### (3) 訓練設備の準備。

本コースの実施に必要な機器はパソコンである。しかし、現地には実習設備がまだ整っていなかったため、これらの機器は沖縄能開大から持参することとした。

## 5. 実施経過

8月19日（火）の開講日には受講者全員が時間どおりに授業に出席した。最初に真栄田事務局長より開講のあいさつが行われ、授業が開始された（写真2）。授業はプログラミングの学習から課題製作まで行ってきたが、参加者は興味を示し、授業中の課題作成には質問が絶えなかった（写真3）。

また、今回の企業人スクールの実施に当たり、大濱市長から積極的な推進をしていただいたので、滞在期間中の8月20日に真栄田事務局長とともに大濱市長に表敬訪問し、感謝の意を伝えた（写真4）。

## 6. 実施の結果

本コースは8月28日に修了した（写真5）。今回のコースに集まった受講者が従事する業種は、健康食品製造業、建材・建設業および観光業等にまたがっていた。

受講修了者は9名であり、そのうち8名に対して無記名アンケート調査を行った。その結果は下記のとおりである。

#### (1) セミナーの内容についてお答えください。

1. 大変満足した 3名



写真2 真栄田義世事務局長による開講あいさつ



写真3 授業風景

**フォトウィークリー**  
**市長室**  
2003年8月18日～8月24日

雇用・能力開発機構沖縄職業能力開発大学校  
(愛称：沖縄ポリテクカレッジ)  
生産情報システム技術科教授 工学博士 林 文樹氏、(中)  
「OSプログラミングコース」開校(8月19日～25日)で  
市長へ表敬あいさつ。真栄田商工会事務局長案内  
8月20日

沖縄職業能力開発大学校  
(沖縄ポリテクカレッジ)  
は、専門課程、応用課程を  
設置し産業界のニーズに  
対応した教育訓練を展開  
しています。写真右  
所在地：沖縄市池原

写真4 石垣市大濱長照市長に表敬訪問<sup>4)</sup>

- |                      |    |
|----------------------|----|
| 2. まあまあ満足した          | 5名 |
| 3. どちらともいえない         | 0名 |
| 4. やや不満              | 0名 |
| 5. 不満                | 0名 |
| (2) 教材についてお答えください。   |    |
| 1. 良かった              | 4名 |
| 2. まあまあ良かった          | 3名 |
| 3. どちらともいえない         | 1名 |
| 4. あまり良くなかった         | 0名 |
| 5. 良くなかった            | 0名 |
| (3) 講習時間についてお答えください。 |    |
| 1. 短すぎた              | 1名 |
| 2. やや短かった            | 2名 |



写真5 修了記念撮影

- |           |    |
|-----------|----|
| 3. ちょうどよい | 1名 |
| 4. やや長かった | 4名 |
| 5. 長すぎた   | 0名 |

以上のアンケート調査結果から、「セミナーの内容についてお答えください」に「大変満足した」と「まあまあ満足した」を答えた人の割合は、合計で100%である。アンケート調査を受けた全員が授業の内容について評価している。この結果から、本コースの講習成果は、在職者訓練の最大目標「セミナー内容の満足度」に達成したといえる。

次に、「教材についてお答えください」については、「良かった」と「まあまあ良かった」を答える人の割合は、合計で88%である。「どちらともいえない」を答えた人は1名（12%）である。また、「やや不満」と「不満」を答えた人はいない。教材は手作りであり、学習者に学習しやすくしてもらうため、詳しい説明と細かい操作手順を工夫して作成した。これにより、9割近くの受講者に評価してもらった。

最後に、「講習時間についてお答えください」については、「短すぎた」と「やや短かった」が合計3名（38%）、「ちょうどよい」は1名（12%）、また、「やや長かった」は4名（50%）がいる。

今回、土日の休みなしでの連続10日間の講習は、ハードなスケジュールであった。特に受講者は、朝早くから会社に勤務し、さらに夕方から6時間の講習を受けていた。このように仕事と学習の両立のきつさを感じられる。また、「長すぎた」と答える人はいない。

最後に、ご自由記入欄に「10日間という長い間、本当にありがとうございました。お疲れさまでした。また、機会があれば勉強したいと思います。」と記入した方がいた。10日間に有意義・充実な学習が達成できたという受講者は、さらに学習したいという意欲が表れている。

## 7. 結論

本報告は、「沖縄県の離島における在職者訓練への取り組みと実践報告」について記述している。以下、その結果をまとめる。

1) 沖縄県の石垣島の人口は少なくないが、沖縄本島から離れるため、公的訓練施設による在職者訓練に恵まれない環境である。今回の企業人スクー

ルの実施により、公的訓練施設は離島における在職者訓練実施の初期パターンが確立できた。

2) 滞在期間中に地元企業の聞き取り調査も行った。沖縄県の離島では専門性の高い教育訓練施設が少ないため、高度な教育訓練の実施が必要という意見が多かった。

3) アンケートの調査結果から、本コースの訓練内容および教材に「大変満足」か「満足」の割合は、それぞれ100%と88%に達した。このことから、本コースの訓練は顕著な効果が表れている。

4) 10日間連続の講習は、受講者にとってきついスケジュールである。ゆとりのある学習環境の設定が今後の課題になると思う。また、本コースはプログラミングを中心とする教育であり、受講者のレベルにより学習速度に差が出ている。このような学習者間のレベル差もゆとりのある訓練時間で調整することができる。

### <謝辞>

本コースの実施に当たり側面から支援をいただいた大濱長照石垣市長、中琉文化経済協会黄輝慶代表に深く感謝の意を表します。また、直接企業人スクールの開催に努力された石垣市商工会真栄田義世事務局長と実務責任者川上菊子様にお礼を申し上げます。さらに、離島での企業人スクールの展開に向けてご支援くださった沖縄職業能力開発大学校大城武校長、吉留和男副校長、平山隆次前援計課長および関係の方々へ心から感謝申し上げます。

### <参考文献>

- 1) 昭文社：「沖縄まっふる2000年版」
- 2) 石垣市ホームページ：  
<http://www.city.ishigaki.okinawa.jp/>  
(2004年12月15日確認)
- 3) 沖縄タイムス（朝刊）、2004年1月9日
- 4) 石垣市ホームページ：  
<http://www.city.ishigaki.okinawa.jp/010000/photoweekly/weekly20030825.pdf>  
(2004年12月15日確認)
- 5) 林・川上：「沖縄県の離島における在職者訓練と実践報告」、第12回職業能力開発研究発表講演会予稿集（2004年10月）